

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果市町村受理日	平成22年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成22年11月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の4月に開設しました。落ち着いたある建物の横には、慈愛畑と名づけた菜園があり、季節の野菜が見事に育ち、利用者様の生きがい、楽しみの場となっています。10名の職員全員が「ここで仕事をするのが楽しい」と言うほど、共に笑い、共に感謝しながら家族のように過ごしています。一人ひとりの心身の状況により、日々変化する事はありますが、個々の能力引き出しながら、安心して、自分らしい生活を過ごしていただけるように関わらせていただいています。地域の方達とも交流を深める意味で、地域の行事に参加したり、ホームの行事への参加を呼び掛け、良い関係を目指しています。開設して日が浅く、色んな意味でまだまだ不十分ではありますが家族様、職員が一つとなり、地域の方達の協力を得ながら、今後も意欲を持って頑張っていこうと思っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然豊かな環境に今年4月開設したホームは、町の支所や駐在署、公民館等が近くにあるという立地条件や近隣住民の協力は入居者の地域の中での生活拡充となり、日々の生活のメリハリが入居者の笑顔を引き出している。管理者と職員全員が一体となり「此処での仕事が大好きで毎日が楽しい」と理念の実現に真摯に取り組み、<人を支えるのは人>という職員のケア意識の高さが確認できる。地域との日常的なふれあいが入居者への理解と協力を繋がり、母体医院や施設との連携は入居者や家族の安心感となり、「慈愛畑」で育てた野菜を収穫し話弾む食卓での入居者の笑顔に日常を垣間見ることが出来る。開設間もないホームであり、今後も基盤作りを期待したい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室内、ホール内に掲示し、業務前に意識づけを行い、実践につなげている。	“共生”を基本に「文化活動」「健康づくり活動」「社会参加活動」の生活づくりのお手伝いの理念を作り上げ、リビングと事務室に掲示している。開設時の職員研修での共有や毎朝のミーティング時に話し合い、理念に添ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の地域福祉事業に参加、他の地域行事にも参加している。またホーム行事の案内をし、近隣地域の方との交流を深め、散歩時には近所の方との会話を楽しんでいる。	ホーム目の前の公民館で開催される「たっしやか会」に参加したり、地域の夏祭りでは七夕飾りを一緒に立て入居者の得意の合唱を披露している。駐在所からの交通講話での来訪やスクールバスを待つ小学生との交流など開設時より地域とのふれあいに努め、そうめん流しに地域住民の参加も得、交流を図っている。毎日玄関の花を生けに来られる方やホームの畑の土壌作りを手伝われる等地域住民も温かくホームを見守り支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加する事で、認知症の人を理解して頂く機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供報告やホームの運営に関する相談等を行っている。敬老会や防災協力体制、地域行事の協力が得られた。	今年4月の開所以来二ヶ月毎に開催している会議は地域(区長・民生委員)・行政(役場・包括)・利用者代表・家族代表・法人代表などの参加を得、ホームの概況説明や意見交換を行い、敬老会への地域住民の参加、避難訓練時の住民協力、会議の中で地域行事をリサーチし夏祭りへ参加する等サービス向上に反映させている。	運営推進会議には家族代表の参加となっており、今後他の家族へ会議の意義を説明し、議事録の開示と報告により、全入居者・家族との情報の共有化が望まれる。忘年会には家族の参加も依頼されており、この機会を生かしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やその都度、グループホームからの相談事や地域福祉に関して情報交換を行っている。	運営推進会議でアドバイスや相談にのってもらい、連絡を密に取りながら協力関係の構築に努めている。包括センター主催の研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を開放している。研修会、勉強会にも積極的に参加、身体拘束についての理解、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	職員が外部研修に参加しており、拘束の弊害を認識している。契約書には身体拘束の具体的な行為についても記載し、家族への周知としている。職員の理解度も深く何気ない言葉に自分で気付く事例もある。昼間は施錠を行わず、職員の見守りや寄り添いに徹底し、開放的なホームを形成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、理解を深め、虐待防止徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業の利用者様は入居されていないが、勉強会に参加し、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金、入退居の条件等十分な説明を行い、ご家族の相談を聞き、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見にも耳を傾けている。また家族様からの意見、要望が聴かれ、それらを運営に反映させている。面会時にも話を聴くように心掛けている。	玄関に意見箱を設置し意見の収集を図り、家族の面会時などは話しやすい雰囲気作りに努めている。家族の面会も多く、本人の好きな事などについて要望を聞いている。重要事項説明書にホームの相談窓口と第三者委員を記載している。	ホーム行事への参加時に、家族同士が話し合う場を作り、今後も忌憚のない意見がホームのサービス向上に生かされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で意見や提案をしている。その時に応じた対応がなされている。	日々のケアやミーティングでの意見や提案を毎月のリーダー会議へ回り、職員意見の反映に繋げている。勤務体制への希望や備品の購入等職員の意見を反映され、玄関への椅子設置の要望に対して、法人事務長手造りの椅子が贈られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて勤務時間の配慮を行い、働き易い様にされている。行事の時は人員を増やすなど、職員の負担にならないような配慮もされている。勤務内容や休憩時間なども職員間で何回も検討した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り、研修会には参加させてもらっている。法人内でも月1回の勉強会が行なわれているので、夜勤者を除き、全員参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、研修の中での交流や視察研修等を行いながら、互いに良いところを取り入れ、サービスの質を向上し合っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、本人様の希望、要望をうかがい、納得の上で、入居して頂いている。良い関係作りをする為に、家族様へ生活歴、趣味等の記入をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、家族様の希望、要望をうかがっている。担当ケアマネジャーからの情報も聴き、ホームに対する不安が排除出来るような関係作りから始めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの機能を説明し、家族様、本人様の希望をうかがったり、担当ケアマネジャー等の助言をいただいたりして、サービスの対応策を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で出来る事は一緒に行なっている。積極的に作業されている姿が多々、見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り、生活状況、心身の様子等を家族様に伝えている。行事への参加を呼び掛け、本人様、家族様との時間が保てる様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域等の行事には積極的に参加している。会話の中に出てきた場所や人名を見極め、個別ケアしている。	家族や知人の来訪でリビングで談笑されたり、行きつけの美容院へ出かけるなど、馴染みの関係継続を支援している。食材の買出しや家族との外出・外泊も入居者の楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。ホールで過ごす時間が長い為、利用者様同士の関わりが多く持て、良い関係が保たれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態を把握し、必要に応じて本人様、家族様の相談に応じている。行事等の参加を呼び掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様からの会話から希望、要望が出た場合は実践しているが、困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談し、その都度対応している。	日々の対話やしぐさにより意向の把握に努め、会話の中で思いを汲み取り、困難な場合は家族から情報を得て職員間で話し合っている。買い物に行きたいとの意向と一緒に出かけたり、健康面での不安にゆっくり話を聞くなど個別支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族様、外部から面会に来られた時等、会話の中での情報を収集し、日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見を取り入れ、介護計画作成者が介護計画を作成している。状態の変化に伴い、介護計画が作成出来ない不安がある。	本人・家族の意向に沿い、必要な時は主治医や併設施設の栄養士等と相談を行い、介護計画の作成時は三名のケアマネジャーが管理者をサポートしている。全職員でのモニタリング、カンファレンスで意見交換を行い、入居後一ヶ月、以降は三ヶ月毎や変化に応じ見直しをする意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。見直しについては、日々の状態を申し送りで行なうが、プランの中に、反映していない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が急きよ、通院介助が出来なくなった場合などは、希望に応じて柔軟に対応している。外泊、外出の際には、本人様、家族様が満足出来る様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の消防団、駐在所との情報交換が出来、支援体制の構築が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態変化時は、かかりつけ医へ連絡、報告し、受診している。場合によってはかかりつけ医との情報交換も行っている。	入居時の説明で本人、家族の了承のもと協力医への移行を行っている。定期受診は家族対応としているがホームでも支援している。入居者の状態変化を職員がいち早く察知し、協力医への受診や往診に繋げている。受診内容は家族へ報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に状態を報告し、助言、指示をしていただき、適切な受診や看護を受けられるようにしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族様に、回復状況の確認や情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると困難な為、現状では出来ない。	本人や家族に日常的に医療行為が必要になれば退去の基準であることを利用案内書に記載し説明している。管理者は日頃より入居者の体調変化の見極めや緊急時の対応について研修の必要性を感じており、研修には参加する意向である。	重度化や終末期に向けたホームの方針を文書化するにより家族、職員間の共通認識とし、研修後は復講により共有し統一した支援の確立を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急処置のマニュアルを作成し、勉強している。また、研修などにも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回は防災訓練を行っている。訓練時には近隣の方にも案内を出し、地域放送もしていただいている。地域の方と密に連携をとり、防災訓練を行っている。	開所後、自主訓練と消防署立ち会いの防火訓練を実施している。地元役所を避難場所とし近隣住民の協力が得られている。スプリンクラーを設置し、IH調理器具を使用しているが日常の生活の中で全職員が心掛けて火元確認をするよう申し合わせている。	山間部に位置する為、今後は火災以外(例:土砂崩れや地震)の訓練の実施や災害時対応マニュアルの作成、備蓄の確保等の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き、人格を把握、尊重し、言葉かけやプライバシー保護には、気をつけ個別ケアに努めている。	職員は入居者に尊敬の念を持って接し、呼称は入居時に本人・家族に聞き取り納得された呼び方で対応し、親しい中にも慣れ合いにならない様な言葉掛けを行っている。内外のプライバシーの研修会に職員が参加し、守秘義務については母体施設長が説明し入職時に誓約書を交わしている。	玄関に設置された面会簿については記入方法の検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が意思表示しやすい様な雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の利用者様の状態に応じて、動いているが、行事の日は集団での歩調、行事の時間に合わせて行動して頂く事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。好みの衣装を把握し、一緒に準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに好みの物や旬の物を取り入れたり、皆で一緒に作れる物(餃子等)を提供している。利用者様が菜園で収穫した野菜を取り入れている。	入居者の意見を聞きながら冷蔵庫の食材を見てその日の献立を決めている。入居者自慢の採れたて野菜も食卓に上り数名の職員も同じ食事を摂り賑やかな風景である。ハイキングに手作り弁当を持って出かけた。敬老会に特別メニューを提供し入居者に喜ばれている。下ごしらえや下膳を積極的に手伝われる入居者の姿を確認した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を作成、記入し、把握している。状態に応じて食事量や食事形態を工夫し、提供している。水分が少ない方にはジュースやゼリー(お茶ゼリー)等で補っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを毎食後、行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、能力に応じた誘導、ケアを行っている。	数名の方が自立されている中、声かけ、誘導の必要な方へは排泄チェック表を活用しながら仕草や表情から汲み取り支援している。職員はドアの外で見守りながら、プライバシーに配慮した対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しつつ、飲食物の工夫や水分を多めに摂っていただいたりしている。入浴を勧め、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定は行なってはいるが、利用者様からの希望があれば、自由に入浴して頂いている。入浴時はゆとりを持ち、会話や、歌を楽しみながら入浴して頂いている。	週2～3回の入浴を支援し拒否の方へも声かけやその日の気分に合わせてながら、間隔が空かない様努めている。個々のケアチェック表には排泄や入浴の他に室内掃除や布団干し、爪切りなどの衛生面の支援状況を記入し入居者をトータルに支えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ、日中の休息を取り入れながら、昼夜逆転につながらないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。処方の変更があった場合には、連絡ノートを利用し伝えている。変更後の状態観察も行っており、次回の受診時、報告が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技を活かし、潜在的、残存的能力を引き出し、楽しみや生きがいを持つよう支援している。菜園での作業や外出等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を考慮し、散歩や買い物など外出支援を行っている。個別的に日頃行けない様ところは、家族様に伝え、外出出来る様に、協力体制に努めている。	日々入居者は近隣の散歩や買い物に職員と共に出かけている。母体の夏祭りには近隣の方が車イス介助の為同行されたり、家族が温泉に連れ出される等家族や近隣住民の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所持とホーム管理がある。所持金を持っておられる利用者様は買い物同行時、支払いが出来るように支援し、ホーム管理の利用者様は職員が本人様に確認し、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の機会が多い為、電話の申し出は殆どない。申し出があった場合は職員が対応したり、ゆっくり会話ができるよう配慮している。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を玄関やトイレに飾ったり、リビング内に観葉植物を置いたりし、落ち着いた空間作りに努めている。光、温度等はカーテンを利用したりして、調整を行っている。	玄関先やトイレ・洗面台には季節の花がさりげなく飾られ来訪者や入居者を楽しませている。建設の段階で地域の人々が気軽に訪れ、共に過ごせるスペースを確保したいという運営者の思いで一つ一つの空間がゆっくりと余裕を持って造られている。花見や日光浴を楽しむ二か所のベランダや職員のキーボードに合わせて全員で歌うソファのコーナー、洗濯たみに利用される和室など明るく清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が一人ひとり、思い思いの空間で過ごしておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方が持ちこみ、室内の配置や使い慣れた家具を持って来ていただいている。	各居室には押入れや洗面台が設置され小ダンスや家族の写真、衣類や小物等入居者の馴染みの品が持ち込まれている。採光が十分に入る室内は掃除も行き届き清潔に保たれ、騒音も無く静かな環境にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を見極め、トイレや居室に名札を提げたり、身近な所に生活用品を置き、整理整頓が出来るよう、その方の能力を活かせるように支援している。		